



発行所:ほかにわ共和国
発行責任者:志賀俊紀
編集責任者:ほかにわ広報部



未来志向の地域共生 理事長 志賀 俊紀

新年度になると目標設定などが求められる。目まぐるしく変革する中であって、設定のスペーシが気になる。それでも何かを探さなくてはならない責務があるが「未来志向」を掲げた。この言葉には、施設が問題化されている「脱施設」という事象に対する我々の使命感を問うのである。
ある団体が、アンケート調査をして、脱施設に関する結果を出したが会の副会長が次のような



新たな希望を胸に 令和8年度辞令交付式

新年度になり、私たちグループホーム悠炉里では、町中に点在するホーム10カ所への入居が決まり、一人ひとりに入居許可証が施設長より、手渡しされました。

地域住民のひとりとして地域の方々と交流をもち、社会参加を目的として地域生活ができるように、支援を行っています。

現在、男性ホームの一つが地域移行の訓練ホームとして調理や買い物訓練を行い、一人暮らしに向けての体験などの支援サービスを行っています。

今年度は女性ホームの4名の利用者様それぞれ自立を目標に日中は就労サービスを受け、休日には家庭的な生活が送れるよう「協力しながら。」の言葉をモットーとし、ひとりひとりの生活に寄り添いながら、まずは、ひとつのホーム作りを行い、来年度には、町中のホームでの地域共生ができるようにと願い、サービスのスキルアップ提供に努めます。

統括 井村一美



六十二歳と還暦を過ぎて、まだまだ現役で休みの日の昼食購入も二ヶ先にあるお店まで徒歩で出掛けています。

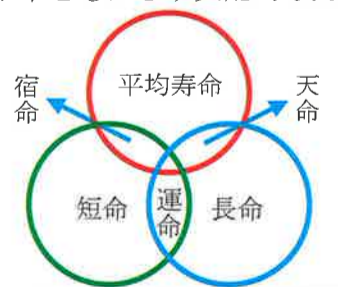
就労先からも期待されているように、通院日でも通院が終わったら仕事にきて欲しいと職場から言われています。

本年度は、久しぶりに新規採用者のフレッシュユ瑞々しさが、新たな希望に繋がる予感もした。この空気を維持継続するのは先輩職員の指導にも掛かっていると期待したい。

その心は、自らが癌の再発に恐怖を感じた瞬間でもあったが、杞憂に終わって胸をなでおろしたのも事実である。そして、身内にアルツハイマーの実態を知り、ダウン症のそれと比較しながら、複雑な思いもあるが、最終的には、癌で死ぬのかアルツハイマーで死ぬのかそれが現実であることは、フィナーレ文化のあり方を模索する時が来たのかも知れないと感じた次第である。

ダウン症の短命説の否定・是正の重要性

大凡、人の生涯は、命の長短、或いは、死の受け入れ方によって、幸福であったかそうでなかったかの基準にされている。「天命」とは、天（高次の存在や宇宙の法則）から与えられた、一生をかけてやり遂げるべき使命や役割のこと。孔子の「五十にして天命を知る」に由来し、自分の存在価値や社会的な役割を深く自覚すること、あるいは逃れられない運命の到達点を指す。「運命」とは、人間の意志を超え、身の上に幸・不幸をもたらす支配的な力や、巡り合わせを指す言葉である。そして、自分の行動や選択で変えられる余地があるとされるのに対し、「宿命」は抗えない絶対的なものというニュアンスが強い。「宿命」は、生まれる前から定まっておき、自分の意志や努力では変えることのできない運命のことを指します。仏教的な意味において、本来は「過去の生涯（前世）」を意味し、現在に繋がる過去からの蓄積として捉えられている。



ダウン症退行のマトリックス図

いいところ見つけた♪

〈森勇さん〉

悠炉里に入所して十八年。デイ雲を利用して森勇さん。デイ雲では自転車こぎや貼りの創作活動などを頑張っています。趣味は塗り絵と貼り絵。休日にも集中して塗り絵をされており、色使いにもこだわって仕上げています。枠もはみ出さず、丁寧な勇さん。作品を飾るのも楽しみです。



〈宮田勝教さん〉

宮田さんは、A型事業所で、農作業と剪定作業にと頑張っています。

日本の言葉と文字 1

藤本 元

これから「日本の言葉と文字」について書いていきます。資料として書籍や動画を紹介しています。よかったらみてください。我々日本人は日本語を話し、日本文字を使っています。世界には約3,000~8,000の言葉があり400ほどの文字があるとされています。すべての言葉には文字がありません、アイヌ語には文字がありません。現在我々日本人は世界で一番むづかしいと言われている日本語を話し、日本文字を使いこなしています。日本には古代時代文字が無かったと教わって来たが本当だろうか？日本には昔から文字があったのです。これから日本の文字についてまとめました。

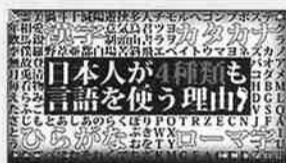


<https://www.youtube.com/watch?v=cd1S22XOehw>

I. 現在の日本文字

1. 4つの文字

現在日本で使われている文字は「漢字」「ひらがな」「カタカナ」「ローマ字」の4つがあり、漢字・ひらがな・カタカナを駆使して仮名交じり文として使って世界一難解な日本語を表現しています。日本語は4つの文字を主として使い意思を伝え残しています。母音・子音50文字を使い広範囲な言葉を残しています。



<https://www.youtube.com/watch?v=cd1S22XOehw>

2. ひらがな

仮名の発展

仮名文字(ひらがなとカタカナ)の起源は、日本に漢字が伝来したことに端を発します。漢字は、中国から渡来した学問や文化の一部?として、日本に伝わりました。以下は、その詳細な歴史です。

ひらがな

基本的に46文字で構成され、日本語の文法要素(助詞や助動詞)や、音の柔らかい言葉の表記に使用されます。

ひらがなの発展

平安時代になると、漢字の草書体から派生してひらがなが誕生しました。ひらがなは、特に女性や貴族たちの間で日常的な文章を書くための簡便な文字として広まりました。このため、ひらがなは「女手(おんなで)」とも呼ばれました。



<https://www.youtube.com/watch?v=5SI9laFVij4>

(つづく)

新年度から四回シリーズ「日本の言葉と文字」を掲載します。執筆者の藤本さんは、理事長と茨城大学時代からの親友で、今回の原稿は、松戸市の市民文化講座の中から抜粋して頂きます。つかさ会の講演は、五歳上の兄の事業所での講演でした。一九六二年全国に私立の施設は百ヶ所もない時代、志賀三兄弟は活動していたが、故志賀司朗の息子への一人残った叔父からのプレゼンでした。

◇福祉の歴史を聞いて、まだ働き始めて日がたっていない自分でもがんばろうと思いました。
◇福沢諭吉の心訓で、する仕事がないのはさびしい事、それを私自身いつも思っていて、今でもノーブルで働いて、忙しい毎日を通してこれに幸せなことなんだと思っています。
四月三日、社会福祉法人つかさ会(志賀正幸理事長)の職員研修会にて特別講演が有りました。受講された職員の感想を紹介しました。

障害者福祉文化史で見るモザイク型ダウン症



Tosiki

ダウン症のある人の人生、文化、そして「天命・運命・宿命」といった言葉が持つ意味は、医療の進歩や社会の認識の変化とともに、大きく進化している。かつては「短命」とされた時代もあったが、現在は60歳を超えるまで長生きする方も多くそのフィナーレ(人生の締めくくり)も多様なものとなってきた。

ダウン症のレクイエム「天命に生きる」という言葉は、ダウン症という特性を持つ生まれた方々が、障害という枠を超え、それぞれの人生を「天命」として全力で生き抜く姿を描き出すテーマや物語を想起できる。そして、運

命・宿命を、ダウン症という個性に照らし「宿命」を考察すると、宿命は不変なものとしてのイメージが強くある。ダウン症は染色体が通常より一本多いという遺伝的な特性。これは生まれた時点で決まっていること、変えることはできない。しかし、「運命」は、自らが切り開くものである。たとえその特性を持って生まれた人が、どのような環境で育ち、周囲とどう関わるかによって決まる人生の軌跡。医療や福祉の支援によって、運命はより良く豊かに切り開かれると考える。

ダウン症を持つて生まれ、母と共に「書」に励み世界的に活躍して多くの人に希望を与える「魂の筆跡」を届ける姿は、まさに天命と言える。現在ダウン症の親の会などの関心は、ダウン症の急激な研究を進める中で一般的なトリソミー21は

急激退行が見られるかもしれないが、同じトリソミー21であってもモザイク型には見られないのではと、私は、次の提案は、「グレイゾーン退行」である。このキーワードは、わが国で初めてになる可能性が高いのである。論文も最終段階になってきて「モザイク型ダウン症」を研究してゆくとこの現象が実証されると確信している。20年前55歳で他界した宮崎俊明君を思い出す。

志賀家全員集合

1952年夏保育園開所直前



次男 稔
次女 徳子
母 マサ子
長男 俊史
四男 俊紀
三男 司朗
父 幸村
長女 麻美子

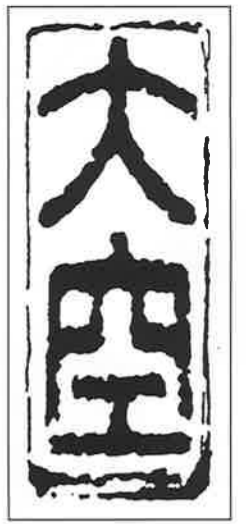
◇わが父司朗と志賀家のルーツが分かり、すごい家系だと思えました。そして、福祉に対する考え方も神社神道であり、共存・共に働く。共通のキーワードが大事ということを学びました。講師の叔父より、「現場で集めた資料とメモは論文になる」という言葉は考えさせられました。そして、わが祖父の尊敬していた福沢諭吉の心訓を語っていただき、人としての大切さを振り返ることができました。

辞令交付式と特別講演

◇南島原の福祉の起源を聞くことができた気がしました。先人達の活動・活躍を知ったり、色々な考え方を聴いたりすることが時には必要だと思いました。

◇障害福祉のルーツを学びました。仕事をしていく中の心構え等を聞いて良かったです。

◇「一緒に汗を流す、一緒に苦しむ、利用者はついてくる」という言葉が印象に残りました。しかも、利用者の皆さんとの信頼関係を見つめ直すきっかけとなりました。



障害者支援施設
八雲寮広報部

一年間お疲れ様でした

毎年一年間の集大成として活動発表会を三月に実施していますが、今回、感染症罹患者の発生により拡大防止対策の為、保護者を交えての活動発表会は中止としました。利用者の方は家族の来訪と発表会開催をとっても楽しみにしていた事もあり、スライドショーによる一年の振り返りと昼食のバイキングは予定通り、職員と楽しみました。厨房職員による手作りのバイキング食に、利用者の皆さんは唐揚げ、煮魚、ケーキなどそれぞれ食べたい物を自由におかわりして、いつもとは違う雰囲気を感じていました。「今日のバイキング楽しかった」「好きなものがたくさん食べられて良かった」との声も聞かれました。

お腹も満たされた頃に一年間の思い出をスライドショーで鑑賞しました。施設内での行事や小グループ活動の中に自分の写真を見つけると、とても嬉しそうな表情で皆さん盛り上がっていました。

今年度も色々な活動を計画し、利用者の皆さんが満足して楽しんでいただけるように行事を企画していきたいです。

(副主任 松本竜平)



1年間のスライドショーを鑑賞中

災害に備えよう!



今回も口之津分署よりお越しいただき3事業所合同（八雲寮・デイ雲・ワークネットやはた）で避難訓練を実施しました。訓練の内容は地震想定で八雲寮の中庭が土砂崩れし、建物が大破したという設定で行いました。地震の影響で内線が使用できない中で携帯電話で連絡を行いました。情報共有が困難な状況での避難は判断が難しく、戸惑う場面もみられましたが、これもいい学びとなったはず。これからも、日頃の災害対策、訓練等を通して皆で学んでいきたいと思っております。(下田)



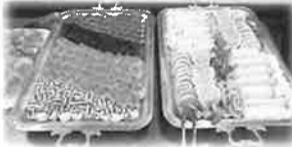
AEDの使用方法を学ぶ



唐揚げ



煮魚



ケーキ



フルーツ



バイキング提供の様子



今後の行事
5月
ゆうあいスポーツ大会
障害者スポーツ大会

6月
合同収穫祭

~NewFace~



栄養士
安藤 友美



相談支援専門員
松尾 麗華



三輪 知輝さん



近藤 颯斗さん

会長になったのは...



令和八年度の自治会選挙が開催され、今年度は田口秀人さん、山本美樹男さん、丸尾達也さん、宮崎功さんの四名が立候補されました。

選挙当日は、たすきとはちまきで準備万端。「これから頑張ります」と堂々と所信表明演説を行いました。投票の結果、会長に田口秀人さんが見事当選。

これから八雲寮をより良くしていただきたいと思っております。四月の自治会活動時に任命式を執り行いました。自治会役員の一皆さん一年間宜しくお願ひいたします。(敬一)



新しく八雲寮に仲間入りしました。皆さん宜しくお願いします!



がんばらんば宣言

今回ご紹介するのは・・・?



谷田 博さん

スポーツ新聞を見るのが日課でプロ野球が大好きな谷田さん。これからも元気に過ごします。

じゃがいも雑感!

新しい年度となり、新しい顔ぶれで始まった四月。毎日の生活が変わるわけではないが、気持ち引き締めさあスタートという感じ。昨年は少し体調を崩し、体力が落ちて気力も落ちて周りの方たちに支えられました。体力が戻りつつ、気力も補いながら半年、「さあ今年度も頑張るか」という気持ちです。あと何年体力が持続できるかどこまで力が続くか、自分との向き合い方になります。どうせやるなら毎日を楽ししく笑いながら過ごしたいものです。

利用者様も新しく二名の方が入所され、早く八雲寮になじまれて楽しい生活を送って頂きたいと願っています。

その為には私たち職員も笑顔で元気に接していきたいと思っております。

(主任 山本智恵美)

こどもと虹

4月号 No.221



協力と応援に感謝

～デイ雲活動発表会～

デイ雲活動発表会も二十一回目が終わりました。歴史ある恒例行事になりました。文化活動では、四月から月に四時間ほどの練習時間を使い各班頑張ってきました。年始からは本番を意識し、毎日の練習へと移り変わり、成功に向け皆さん取り組まれます。

主役となりうる台本を考案。小道具も利用者と職員が協力して制作に携わり、デイ雲の集大成となりました。

文化活動については一年を通して練習を行います。発表会の終盤の目玉でもあるオペレッタは準備期間も少なく年末から構想、台本作成、そして練習に短期集中して挑みました。今回はストーリーも作り込まれており、利用者の方一人ひとりが

その他の演目では今回も各事業所の他に、外部団体として市の社会福祉協議会と連携し『ひのきの会』様による紙芝居の上演をしていただきました。



オペレッタ終幕後の“上を向いて歩こう”の大合唱

おかげ様で華やかな活動発表会となり、見学に来られた父兄の方や他事業所の職員からは感動したという言葉が聞かれました。舞台上の作品を通して、デイ雲の活動を伝えることができました。これからは数多くの方々にデイ雲の活動を理解していただき、活動発表会を通して感動をお届けしたいと考えています。

高松 豊

春風に誘われて ～花見外出～

令和7年度最後の小グループ活動として3月24日、千々石の橘公園へお花見に行きました。橘公園は桜の名所でもあり、園内では神社までの参道に約500本のソメイヨシノが続いています。当日は、まだ満開の桜を見ることは出来ませんでした。桜まつりの時期でもあり、多くの来場者と一緒に園内を散策し、春のはじまりを感じながら癒やしの時間を過ごすことができました。(永野)



新規採用職員紹介

生活支援員/児童指導員

事務員



柴内有香梨



白倉沙耶



菅由美

行事予定5・6月

- ・日帰り旅行
- ・デイ雲誕生祭
- ・ホーム別活動

※状況により延期・中止になる場合があります。

雲と虹



私が大事にしている四字熟語があります。それが「桜梅桃李(おうばいとより)」です。桜、梅、桃、李(すもも)がそれぞれ独自の花を咲かせるように、人もまた自分らしさや個性を大切に、それぞれの特性を活かして生きるべきであるという考え方です。

自分らしさや個性を出すことには、少し恥ずかしさを感じる事もあります。しかし、自分が好きな事や大事にしている事、物事の考え方はその人がその人らしくいる為の大切なものに違いありません。人それぞれが、自分だけが持つ花を咲かせられ、きつと色鮮やかで優しい世の中になるのではないかと考えます。

副主任 濱田由佳

熱戦! 児童ボウリング大会

3月14日、放デイの児童でボウリング大会を行いました。車内で大好きな曲をかけテンションMAXで歌いながら目的地へ向かいました。ファミレスで昼食を済ませ島原センターボウル着くと専用のシューズに履き替えいざゲームへ!! 最初重いボールに苦戦しながらも、だんだん慣れてきてストライク、スペアが出ると大盛り上がり! 対戦形式でゲームを行いました。皆他の子の応援をして楽しくゲームをしました。帰る時は疲れて眠る子もいました。放デイの今年度最後のイベントをみんな笑顔で締めくくることが出来ました。



新年度は新しいお友達も増えさらににぎやかになります。一人ひとりに寄り添い支援していきます。(小林)



藤原凌梧さん 小柳愛さん 岩下蓮さん

祝卒業 おめでとう

三月放課後等デイサービスを利用されていた児童がめでたく卒業を迎えられました。

引き続きデイ雲を利用される方、新たな生活を初められる方々ですが、デイ雲で学んだ事とたくさんさんの思い出を胸に、それぞれの道を進んでほしいと思います。



共同生活援助事業所
(介護サービス包括型)
悠炉里広報誌

新年度を迎えて

主任 大場康生

悠炉里では、利用者全員が自分らしい暮らしを実現できるように、今年度も多様なニーズに応じた支援体制の充実を図っていききたいと思っております。

現在、地域移行を目指して、一人暮らしに向けた訓練を進めているホームがある一方で、日常生活に介護的な支援を必要とする利用者が多いホームもあり、サービス内容は多岐に渡っています。その為、職員には利用者の状況を正しく理解し、柔軟に支援を組み立てる力が要求されています。

今年度の目標は、①地域移行支援の強化②介護的支援の質向上③職員の支援力向上の三点です。地域移行を目指す利用者には、生活スキルの習得を支援し、必要に応じて地域の関係機関と連携しながら、安心して一人暮らしのできる体制を整えていければと思います。



入居許可式

今年度は研修体制を見直し、障害特性の理解、虐待防止、介護技術など、実践に直結する内容を中心に学びの機会を増やしていければと考えています。令和八年度も、利用者一人ひとりのその人らしさを、それぞれの幸せのカタチを大切に、多様なニーズに応える事業所として、地域と共に歩む支援を続けていきます。

引っ越ししました

年度末になると、利用者の健康・身体状態にあったホームへの移動を行っています。階段を利用して人がバリアフリーのホームへ行くなど4月からの新たな生活に向けて職員は準備をします。利用者の中には引っ越しで、ホームのみんなと仲良く出来るか心配になり情緒不安定になる方もいますが、職員はより良い生活が送れるよう生活の場を整えます。毎回、許可を得て不要な物を処分しているのですが、数年同じ居室で過ごしていると物が多くなっている事に毎年驚かされます。(池永)

一方、介護的支援が必要なホームでは、日常生活の介助を丁寧に行い、利用者が安心して暮らせる環境作りを進めます。医療機関との連携を強化し、定期的な健康チェックや緊急時の対応体制も行っていきます。

また、職員の支援力向上に向けて、今年度は研修体制を見直し、障害特性の理解、虐待防止、介護技術など、実践に直結する内容を中心に学びの機会を増やしていければと考えています。

みんなで手作り昼食

みんなが待ちに待ったAユニット活動の日。男女問わずエプロンに身をつつみ、食堂に集合して体制は万全に出来上がった中、焼きそばとお好み焼きに挑戦しました。「自分の分は自分で作ろう」をテーマに全員が、箸とフライ返しを手に持ち、あれやこれやといいながら作り上げました。BGMはみんなのカラオケが流れていました。

職員の方も作り、みんなで楽しい食事タイム。みんなからは「自分で作ったらおいしか」「また作りたい」という声もあり、全員で楽しいひと時を過ごしました。メンバーが変わっても、新たな仲間と一緒に、この様な活動は、今後も続けていきたいと、強く思った一日でした。

(原川)



(上手に出来るかなあ?)



NEW FACE



今年度から悠炉里に配属となりました。悠炉里は催し物が多いので楽しみです。(馬場)

お風呂で汗を流し、昼ご飯。ピザやお寿司などたくさん料理が並び、お腹いっぱい食べました。カラオケで歌も楽しみ、くつろいで過ごしました。他ホームの人とも久しぶり会えて、おしゃべりも楽しめました。今年度最後のユニット活動、良い思い出が出来て良かったと思います。(竹市)

元気にウォーキング



三月八日(日)に玉垣荘・朋雲荘・紫雲荘・湧雲荘のBユニットで加津佐から口之津港まで廃線を利用した自転車ロードをウォーキングしました。晴天で絶好のウォーキング日和でした。歩いた後に、ご馳走が待っていることもあり、みんな元気に歩ききりました。「海がキレイだった」との声も聴かれ、景色を楽しみ余裕も見られました。ゴールへみんな到着してから東望へ。



(みんな大好き唐揚げ)

つゆりど



一年が終わりを迎え、新年度となります。二、三月は利用者さん達からホームの引っ越しや職員との異動など来年度の事を連日のように聞かれました。時が経つのが早い一年でしたが、沢山の思い出が出来ました。小G活動で県外旅行へ引率として同伴した他、ある利用者の日常生活を頑張る姿が印象に残りました。悠炉里では宅食サービスを利用し、利用者自ら食事作りを行っています。おかげで湯煎し食卓へ並べています。この経験をすることで作る楽しさを持ち、ホーム活動では包丁を握りドライカレー等をクリスマスに振舞って同居される人を喜ばせ「うまか」と感想を聞いた本人も喜ばれる姿を見る事が出来ました。自立支援の一環で利用者も頑張っている事ですが、職員も利用者が何に興味を持っているかを感じる事で、利用者の成長して行く姿を隣で見たいです。(副主任 井上翼)

~今後の予定~

- ・5月GW帰省(予定)
- ・小G活動(島原・五島)
- ・5月31日(日) 障害者スポーツ大会

我ち愛

障害福祉サービス
ワークネットやはた
広報誌 4月号

共に歩み

チャレンジをつづける

管理者 松尾喜一

社会のあり方や人々の暮らしは、日々少しずつ姿を変えています。障害福祉の現場においても、制度の改正や地域のニーズの変化など、さまざまな動きがあります。私たちは、そうした変化に対応するだけでなく、自分たちから新しい流れをつくり出していく存在でありたいと考えています。

にしている暮らしに丁寧な耳を傾けること。その積み重ねの中に、変化するためのヒントがあると感じています。「できないことを支える」だけでなく、「できることを一緒に広げる」視点を大切にしながら、小さな挑戦を重ねていきたいと思えます。

地域の方々との繋がり、支え合いながら、強く優しい職場を目指して。そのための新しい工夫やアイデアを、職員みんなで出し合い、形にしていきます。変化を前向きに受け止め、利用者の皆さんと共に創り出していく。そんな歩みを、これからも続けてまいります。



職員と盛り付けをしている大村航太さん

満足100%を目指して

価格高騰が続く中、園芸班で野菜作りに取り組み地産地消ができるようになりました。

その結果新鮮で栄養価の高い旬の美味しい食材が手に入るほか、生産者の顔や育てている様子が見えるため、安心して利用することができます。

今後は、野菜の適正価格を考えながら、価格と供給の安定を図っていきます。さらに将来的には、新鮮な野菜を利用者の皆さんと一緒に生産し、調理できるよう、互いに協力しながら成長していきたいと考えています。

これからも、美味しくて安心できる給食を提供していきます。(久保)



玉ねぎ収穫後、葉切りの様子



晴天の中ピースサイン♪

花よりお弁当♪

3月27日、お疲れ様会を権田公園で開催しました。桜は、まだ開花していませんでしたが膨らんだ蕾に春の訪れを感じました。

厨房で、作った手作り弁当を食べながら会話も弾み、ゆったりとした時間を過ごすことができました。

そして、この場でお別れの時を迎えることになりました。寺田次男さんと寺田松枝さんは、4月からデイ雲を利用されます。お二人は、平成22年4月から当事業所を利用され紙加工班での作業に従事されてきました。これからも、兄妹仲良く健康で過ごせるよう、職員一同願っています。

(林田)

新職員紹介

NEW FACE



事務員
酒井 希



職業指導員
牧瀬 憲治



三輪 知輝さん

宜しくお願いします

一生懸命
頑張ります

被服班でラベル
付け作業を頑張ります

散歩道

三月一日、末娘が高校を卒業し進学のため福岡県に行きました。兄弟三人共、福岡県内に住む事となり、親としては少し安心しています。

最近は大學生のバイクや車の事故を多く耳にして、ニュースで報道されるたびに胸が痛みます。毎朝、「無事に帰宅できますように」と心の中で願う毎日です。

子供達は「夫婦二人仲良く暮らしてね」と親を気遣うようになり、子育ても一段落した様に感じます。

幼い頃の、出来事をいろいろと思い出し、今となってはもつと子供と接してあげれば良かったと後悔する事もありますが、お互いに助け合って、これからの人生を安心して過ごせるように応援していきたいと思うこの頃です。

副主任 光長 まゆみ

しほは、しほ

たゆまざる歩み 恐ろしかたつむり

デイ雲柿の木 所長 原口 由紀子

昨年度に引き続き、今年度も新卒の職員が二名採用され、社
会人としての一步を私達と一
緒に歩むことになりました。

平成二十五年度に高校を卒業したばかりの佐藤祐太副主
任が、新卒の新人職員として当
事業所に配属されて以降は、採
用者より退職者が多く、新卒採
用ゼロ期間が長かったように
思います。思わず下を向きそう

なる私達に当時の近藤孝信
理事長が、「自分たちの仕事に
自信と誇りを持って、しっかり
前を向きなさい」と仰いまし
た。この職場を理解してもらい
たい一心で、平成二十九年度夏
休みに島原農業高校の生徒を
アルバイトとして採用する取
り組みを開始しました。

その後もずっと学生アルバ
イトの採用を続け、昨年度、漸
く新卒者として採用されて、今
年度も学生アルバイトの経験
者が一名います。時間はかかり
ましたが、ようやく実を結んで
り組みます。



中学校入学の
池田莉音さん (左)
松尾杏美さん (下)

ご入学 おめでとう ございます!

高校入学の
城川宏揮さん (右)
永友美怜衣さん (左)

給食をのこさず
食べます。

柿の木

新入生が入学しました。



改善しよう！そうしよう！

毎日の日課である喫茶ですが、「皆さんコーヒーが好き」と思い込んでいたことで、利用者の皆さんがどういう希望や不満を持っているか、知ろうともしていませんでした。気づかされました。そして「普通の暮らし」を目指す一方で、健康を守るためになんでも自由というわけにはいかない支援のもどかしさがありました。

タブレットを活用して利用者の希望する飲み物をネット購入するなど、新たなチャレンジの連続でした。そうすることで満足度を上げ、健康とのバランスが採れた支援に繋げることができたと思えます。

結果として、法人内 QC 発表の場で金賞を頂くことができましたが、順位もさることながらメンバーとの充実した会合の時間および、QC という大きな壁の前で汗かきベソかきながら模索した期間が大きな財産だったと知りました。

(園田)



ようこそ柿の木へ☆



めっちゃがんばるけん



売店(これ波これ和)
情報が充実♪

「地域を綺麗にして貢献したい！」という気持ちで取り組んでいる中、地域の方からは「清掃をしても」意味なかとに」と言われたこともありました。確かに、雨が降り増水などすると川の状況は一変し、綺麗になったばかりだった川も、一瞬で草やゴミが散乱してしまします。また、十四年という月日は、その年数通りの歳を利用者・職員に与え、川で濡れた重いコンテナを持てる利用者の方は、今では数名になっ
てしまいました。

そんな中でのこの表彰。これからの活動は様々な課題がありますが、利用者・職員力を合わせ、頑張っていきます。(恵理)



言の葉

5月の行事

- 2日 柿の木祭り※
 - 6日 菖蒲湯
 - 13日 河川アダプト
- ※印は参加費あり

特集



今年度の特集ページでは「ほかにわのいいところ」をテーマに本法人の良い部分、誇りにできるところについて取り上げます。

初回はデイ雲の職員を対象にアンケートを実施し、結果をいくつかの項目にまとめてみました。

■法人の活動や取り組みについて

・地域との絆やつながりの強さ
奉仕活動や行事への参加、地元学校との交流など様々な活動通じた地域とのつながりを大事にし、地域社会と共生できるよう努めています。

・伝統を大切に

一般家庭ではあまり行われなくなっている季節ごとの行事や昔ながらの慣習も、受け継ぎながら毎年続けています。



しめ縄作りと餅つき

ほかにわ共和国の動き

5月下旬	法人監事監査
6月初旬	理事会
6月中旬	評議委員会
7月1日	物故者法要



個性を活かしたさをり織り

・独特な活動への取り組み

ヘルマンハーブやさりを織り、八雲寮のびっくり箱など、独特で個性的な活動をたくさん行い、法人や事業所の顔となるよう力を入れて取り組んでいます。

■利用者や家族の立場から

・誰もが輝ける場所

「共汗共育」の考え方に基づいて利用者や職員と一緒に、誰もが個性を活かし主体的に取り組める作業活動や文化活動を工夫して実施しています。

・手作りで安価な給食提供

栄養士による献立と調理員による手作りの食事を安価で提供しています。毎日の食事は利用者の方の楽しみの一つでもあります。

・支援学校への朝の送迎サービス

放課後等デイサービス利用で特別支援学校へ通学する児童を対象に、朝の学校送迎を無料で行っています。保護者の負担を軽減し、障害のある子ども達の教育の機会を確保しています。

■職員として働くうえで

・柔軟な働き方



毎年1月5日開催の新年職員研修会

それぞれの“新たなる希望” ～辞令交付～

桜舞う4月1日、令和八年度辞令交付式が惟神記念館において挙行されました。

志賀俊紀理事長は「新たなる希望」をキーワードに、運命は自ら変えることができると訓示を行い、近藤孝信理事は職務遂行では熱意と熱量が大切であり、何事も誠意をもって行えば必ず理解してもらえと呼びかけました。

最後に新規採用職員を代表して柴内有香梨さんが理事長へ希望と決意の言葉を述べました。



職場は育児や介護など家庭の事情に配慮され、多くの人に働きやすい環境となっています。

・協力体制と丁寧な指導

未経験で働く前に不安があっても、周囲のサポートと丁寧な指導で、どなたでもスムーズに職場に定着できるよう心がけています。

・研修によるスキルアップ

外部研修の受講、また新年職員研修会を始めた法人内研修の受講により、専門性や技術の向上を図ることができます。

今回はデイ雲職員のみアンケート結果をまとめました

が、地域との強い絆、伝統的な行事の継承、当法人独特の「ほかにわない」取り組みを法人の強みとしてとらえている職員が多いことがわかりました。

(デイ雲広報部 小山)

スタッフ 募集!

一緒に働いてくれる方

お待ちしております

✉ hokaniwa@isis.ocn.ne.jp

☎ (0957)87-2464 担当:酒井



ほかにわ共和国の
Instagram
はじめました!

ほかにわない Only one の成長

ほかにわない only one の言葉

今まで仕事をしてきて、一人の人間として成長した時は、「苦しかった時」「辛かった時」だったような気がする。

「仕事を通じて己を磨く」と言われてきた。これからも仕事に日々真摯に向かい合い成長していきたい。

八雲寮 福田義郎

マイブーム マイコレクション

私は休みの時、“Netflix”で動画を観ています。特に医療系や刑事ドラマが大好きです。

オススメの医療系は『TOKYO MER』で、刑事ドラマだと『MIU404』です。どちらもドキドキと涙が無くしては観られない作品です。皆さんもぜひ観てください。

デイ雲柿の木 濱松 香

